

発行者： 社団法人宮陵会（神奈川大学校友会）三浦半島支部 企画・広報委員会

事務局： 鎌倉市津西1-31-15 TEL0467-32-4957

新年会に過去最多の66名が出席

～第Ⅰ部 講話講師は湘南信金石渡理事長～

宮陵会三浦半島支部の第3回新年会が1月31日（土）午前11時30分から、京浜急行横須賀中央駅そばのセントラルホテル5階宴会場で開かれ、66名（内懇親会参加者59名）が出席した。

新年会当日は、前日から雨が降り続き肌寒く、強風が吹き荒れるとの予報にもかかわらず多数の参加で、ますます盛大になっていく支部の発展に喜びを感じました。

（第1回新年会出席者38名。第2回は51名）

昨年の新年会では、アトラクションとして神大フラメンコチームをお呼びしましたが、今年の新年会の第Ⅰ部は、内藤正久副支部長の司会により昨年6月、湘南信用金庫理事長に就任された石渡卓氏（昭和51年貿易卒）が「最近の経済情勢について」というテーマで講話をされた。

（講話の要旨は3頁に掲載）

て三浦半島支部が発足した。横須賀、鎌倉、逗子、三浦、葉山の四市一町には5,500名の卒業生がおり、横須賀市内だけでも520名の学生が在籍している。現在支部会員は107名で、会員相互の親睦の充実と、母校神奈川大学および地域社会の発展に寄与したいので、引き続きご支援、ご協力をお願いしたい。また神奈川大学は「質実剛健」「積極進取」「中正堅実」の建学の精神のもと、2008年に創立80周年を迎え、100周年に向けた改革が始まった。この創立80周年記念に係わるキャンパス整備事業として三浦半島支部とし募金事業に協力したい。箱根駅伝では保土ヶ谷駅前での母校の応援等、支部の活動状況を話し、多くの卒業生に会員になってもらい地域貢献に努めて行きたい」と挨拶した。

乾杯は川瀬元夫先輩（昭和31年経済卒）で「母校神奈川大学並びに三浦半島支部のますますの発展と、皆様のご健勝を祈念いたします」と乾杯の音頭をとられた。

懇親会には、初参加の湘南信用金庫役員職員の皆様その他、県内外からも卒業生が出席。会員は地区ごとのテーブルを囲み歓談し、初参加の方々は壇上で自己紹介を行ない和気あいあいの雰囲気のもと進められた。



講話をされた湘南信用金庫石渡卓理事長

第Ⅱ部の懇親会は、12時15分から砂川正夫副支部長の司会進行で行われ、挨拶に立った古川勝彦支部長は、「平成18年6月に神奈川大学卒業生の校友会支部とし



懇親会会場（サファイア）の風景

懇親会が進行するなか、3月に開催される第8回三浦半島支部ゴルフ会オープンコンペ、第2回三浦半島支部歩こう会への参加呼びかけが世話人（幹事）から行われ、さらに原柳作三浦地区幹事から「神奈川大学80周年記念募金事業に協力するためお一人様3千円のご寄付を賜りたい」と提案があり、原幹事と星野由希子横須賀地区

幹事が各テーブルを廻り39名の出席者から温かいご協力をいただいた。

中締め挨拶は小池邦夫副支部長が行い、手塚正宮陵会体育振興委員長の指揮のもと、神奈川大学校歌と応援歌（久遠の覇者）を全員で大合唱し、神奈川大学、宮陵会、三浦半島支部にエールが送られ新年会は盛会のうち幕を閉じました。



懇親会終了後全員で記念撮影

(横須賀地区幹事 菊地 武)

新年会に参加して ～会員の感想～

新年会に出席された会員の皆様のうちから5名の方々にコメントをお願いをしましたところ、全員から報告いただきありがとうございます。意見としては若手卒業生の参加をという声が多く寄せられました。

支部運営を担う人材を確保し、組織の活性化を図るためには、若手卒業生の参加が不可欠です。今後支部役員会でも検討してまいります。なお、会員の皆様のお勤め先（元勤務先含む）、ご近所等でお知り合いの卒業生がいましたら、支部役員までご連絡下さいますようお願い申し上げます。

(事務局 鈴木 稔)

鎌倉市 川瀬 元夫さん（昭和31年経済卒）

☆ 盛会でした。役員ご一同の呼掛け、設営ご苦労様でした。参加人数も増加傾向は喜ばしい事です。欲を申せば、もう少し若手現役卒業生皆さんの加入を希い、私も鎌倉で微力乍ご協力申し上げます所存です。場所も横須賀

中央駅前には至便（快特停車）。何と言っても日本料理は健康食、それに美味でした。来年も元気で集まりましょう。

横須賀市 吉田 武男さん（昭和43年貿易卒）

☆ 1月の新年会、初めて三浦半島支部の行事に参加しました。同窓の方々との歓談や校歌など、学生時代が甦ったひと時でした。働き盛りの30代、40代参加者が増えるといいですね。経験や情報の交換伝承の場は貴重です。多様性のある親しみ易い会として発展して欲しいと思います。

鎌倉市 矢澤 基一さん（昭和44年経済卒）

☆ 会員の高齢化や鎌倉、逗子、三浦、葉山地区からの参加者が少ないことが残念です。特に鎌倉地区の同窓生に話をしているが、宮陵会そのものには加入していない。支部の活動に魅力を感じないとの意見もある。

若い卒業生への入会の働きかけや、魅力あるイベントを企画することが重要であると思う。

つるた

横須賀市 轟田 俊秀さん（昭和44年応化卒）

☆ 大学卒業と同時に陸上自衛隊幹部候補生学校へ入校後、幹部自衛官として日本全国を飛び回り、退官前にやっと横須賀の地に落ち着くことが出来たお蔭で今回初めて新年会に参加することができた。

多くの先輩・後輩と懇談し、大変有意義な時間を過ごすことが出来ました。これも旧知の同窓生のお蔭と心より感謝しています。

横須賀市 石田 泰教さん（昭和48年貿易卒）

☆ この2～3年転勤しており、本年より横須賀に戻りました。横須賀は転勤前から約30年住み慣れた町ですが、通勤時に通過する町で知人も少なく、この会に参加し、この地域に数多くの方が活躍していることを知り心強い限りです。今後ともよろしくお願い致します。

湘南信用金庫石渡理事長講話要旨

1. はじめに

今日、この会に来てびっくりしました。三浦半島に神大卒業生によるこのような組織があることを知りませんでした。会の運営にご苦労してしていることと思ひ感謝の気持ちで一杯です。私は来月55歳になる。横須賀市池上で生まれ育ち、池上中学、県立追浜高校卒業後神大に入学、1年間サッカー部に入り2年次からゴルフ部に所属した。就職は地元志向が強く横須賀信用金庫（現湘南信用金庫）に入庫、36歳の時、大口支店長にいただいた。

2. 日本経済の状況

昭和26年の信用金庫法から始まり、私は5代目の理事長（湘南信金2代目）。信金の融資は営業区域が限定されている。現在の預貸率は65%、残り35%を市場で運用している。景況悪化により貸出先の財務内容が悪化したり、条件変更をすると債務者区分の見直しを迫られ引当をせざるをえなくなる。景況の表れがダイレクトに経営にのしかかる。

米国発の不況は、日本の大企業・金融機関に深刻な影響を与えている。政府発表の全治3年は信じられない。景気のピークは昨年秋、半年も経たないのに激変した。景気が元に戻るのに10年位かかると思う。景気循環にはキチンの波（在庫変動約40ヶ月）、シュグラの波（設備投資約10年）、グズネッツの波（建設需要約20年）、コンドラチエフの波（技術革新約50年）と学者が述べており合っているなど感じる。日本は負の連鎖に入った。スパイダルをどう止めるのか。オバマが大統領に就任し政策は矢継ぎ早でスピード感がある。日本は欠けておりどうなるのか。WTIの原油価格は、1バーレル41ドル75セントと昨年7月の1/3に低下したが実感がない。政治はあてにならない。自分のことは自分で責任を持ち判断するしかない。

3. 心と体の健康

メンタルシックでは心を痛めている。社会、職場、家庭もそうかも知れない。特に経営者の方々は気を配っていただきたい。また自分、家族、社会のために禁煙しましょう。がんはDNA細胞が傷つき起こる老化、二人に一人はがんで亡くなる時代。早期発見、治療を施せば生存率は高まる。（完）

神大創立80周年記念事業募金を大学に贈呈

第3回新年会の席上「神奈川大学創立80周年記念事業募金」を呼びかけましたところ39名の出席者から総額117千円が寄せられました。

寄付金は、2月10日、古川支部長他役員2名が神奈川大学募金事務室を訪問し、責任者の辻洋一氏（総務部長兼募金室長）に募金者リストを添えお渡ししました。

創立80周年記念事業では、横浜キャンパス総合グラウンド人工芝・スタンド周辺整備（完成済み）と湘南ひらつかキャンパス新棟（仮称11号館。3階建・床面積3,630㎡。600人収容ホール、コンピューター演習室、会議室、事務機能を集約）を建設し、所要資金は総額16億円。うち11億円は自己資金で賄い、残り5億円は寄付金で調達する。募金期間は、本年10月31日まで。

辻室長の説明では、2月10日現在募金総額は2,066件372,942千円（法人50,820千円、個人68,534千円、大学後援会200,000千円、宮陵会53,588千円）。募金事業に協力された方については、湘南ひらつかキャンパス新棟完成後、氏名を印した銘板を仮称11号館に設置するとのこと。

募金にご協力いただきありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

寄付者ご芳名

（敬称略）

篠田 拓郎	川瀬 元夫	小澤 光	若林 秀明
古川 勝彦	矢澤 基一	山岸 一輔	小池 邦夫
中川 六郎	南雲 忠男	角谷 彰	石井 一男
大倉 国光	菊池 武	村田 龍也	長谷川征勝
奥野 晶洋	寺脇 敏彦	砂川 正夫	久保田宣彦
鈴木 稔	轟田 俊秀	武井 利徳	鈴木 和夫
田中 久夫	石田 泰教	鳥海 洋義	石渡 卓
内藤 正久	松井 一郎	清水 英樹	堀越 昌樹
星山 正範	原 柳作	古家 秀紀	齋藤 功
佐藤 武	春原正三郎	木村 康弘	以上39名

神奈川スポーツサミット2009を開催

3月7日(土) パシフィコ横浜会議センター

3月7日(土) 午前10時から横浜市西区のパシフィコ横浜会議センターで、神奈川スポーツサミット2009(主催:神奈川大学、後援:神奈川県、横浜市、川崎市、平塚市、神奈川県体育協会、横浜市体育協会、神奈川新聞社、tvk、アールエフ・ラジオ日本、FMヨコハマ)が開催され約620人が参加した。プロ、行政、産業、地域、大学の連携によるシンポジウムは初めての開催。「連携」「交流」をキーワードに、スポーツを通じた神奈川モデルを構築していくのが狙い。始めに横倉節夫神奈川大学人間科学部長が開会挨拶を行い、午前の部の第一部シンポジウムのコーディネータは茅野英一氏(NPO法人かながわクラブ)。パネリストの(株)明治スポーツプラザ代表取締役石原良太郎、相鉄観光(株)取締役社長飯田重行、(株)横浜銀行広報IR室長山下明良、横浜マリノス(株)取締役中村勝則4氏が「神奈川の実践を語る ～スポーツによる地域戦略～」というテーマで発言しディスカッションが行われた。

午後の部は午後1時から始まり、中島三千男神奈川大学学長の挨拶の後、松沢成文神奈川県知事が「神奈川力とは ～本県におけるスポーツ振興施策を通して～」というテーマで約1時間基調講演をした。

第二部のシンポジウムは、「神奈川の未来を語る ～スポーツが担う地域形成。神奈川モデル構築へ～」というテーマで、コーディネータに大後栄治神奈川大学人間科学部教授(同大学陸上競技部監督)。パネリストは横浜市副市長阿部守一、(株)横浜ベイスターズ代表取締役社長佐々木邦昭、(株)湘南ベルマーレ代表取締役眞壁潔、(株)テレビ神奈川営業本部営業局長中村行宏、神奈川大学人間科学部教授大竹弘和の4氏。横浜ベイスターズ佐々木社長は、「目指しているのは地域に愛される球団」と、選手が小学校を訪問して夢を語り合うプロジェクトなどを紹介。湘南ベルマーレの眞壁代表取締役は、「地域総合型スポーツクラブとして、誰もが色々なスポーツを気軽に楽しめる場にしていきたい」また神奈川大学大竹教授(スポーツ政策論)は「行政が核となり事務局は大学が担い、来年もこのサミットを開催したい」

と語った。神奈川スポーツサミット2009の詳細については、3月27日発行の神奈川新聞に掲載される予定ですをご覧ください。

(学)神奈川大学、(財)日本サッカー協会と包括連携協定を締結

学校法人神奈川大学(伊藤文保理事長)と財団法人日本サッカー協会(犬飼基昭会長)は2月26日、神奈川県の地域社会への貢献を目的とした連携を推進していくため、包括連携協定を締結したと発表した。

地域教育の貢献では、日本サッカー協会が小学生向けに行っている学習支援活動「JFAこころのプロジェクト」を神奈川大学が持つ神奈川県内のネットワークを活用し、紹介するとともに、神奈川地域における運営の基盤的役割を果たす。

神奈川大学人間科学部・大学院人間科学研究科において日本サッカー協会役員が講師となり実践的な内容を講義することを検討する。日本サッカー協会内で行っている活動等に大学教員を講師として派遣し協力する。この他、日本サッカー協会において神奈川大学学生の研修を受入れ「JFAこころのプロジェクト」の運営に学生が参加するというものです。日本サッカー協会と大学の包括連携協定は初めてであり、今後の取り組みが期待される。

山岳部、今年5月エベレスト登頂を計画

～世界七大陸最高峰6峰目制覇を目指す～

神奈川大学山岳部、学士山岳会(OB会)は、神奈川大学創立80周年記念事業の一環として、世界七大陸最高峰(セブンサミット)制覇達成に向けた壮大な計画を立てた。2003年1月南米の最高峰アコンカグア(6,962m)を登頂。その後ユーラシア・エルブレス(5,642m)、オーストラリア・コジウスコ(2,228m)、アフリカ・キリマンジャロ(5,895m)、北米・マッキンリー(6,194m)の五大陸最高峰を制覇

し、残すはアジア最高峰のエベレストと南極にあるピンソン・マシフとなりました。

エベレスト(8,848m)へは、現役部員1名を含む11名の隊員で今年3月に日本を出発し、大学創立記念日に当たる5月15日登頂を計画している。1930年創部の神大山岳部は、全国の大学の中でも歴史と伝統を有し、世界七大陸制覇を達成すれば全国の大学として初の快挙となる。

エベレストと南極ピンソン・マシフ峰遠征資金総額は4,500万円。隊員個人の負担金は3,000万円、不足分は山岳部OB、その他支援者からの寄付による。

遠征資金募金についての問い合わせ先は次のとおりです。皆様のご支援よろしくお願いいたします。

〔 連絡先 〕

〒221-8686

横浜市神奈川区六角橋3丁目27-1

神奈川大学セブンサミッツ計画実行委員会 事務局

神奈川大学工学部機械工作センター気付

電話 045(481)5661

山岳部顧問 本田 広幸さん

〔 募金の金額 〕

◎ 個人 一口 1万円、法人 一口 5万円

(一口以上何口でも結構です)

◎ 期間 2009年5月31日まで

◎ この寄付金は特定公益増進法人への寄付金として免税の対象になります。

2009 アスリート進学情報

今春、硬式野球部、陸上競技部への入部予定者が発表されましたのでお知らせいたします。

〔 硬式野球部 〕 12月27日神奈川新聞掲載

◎高橋 健介(金足農業)栗ヶ窪 駿(武相)外川 修人(日大一)板谷 和(東京)末松 浩由(九州国際大付)伊藤 将太郎(大曲工)田邊 巴(日生学園)桐 大地(富山一)小松 恵太(花咲徳栄)◎鼻田 真也(浦和学院)黒瀬 一太、藤原 築(以上瀬戸内)小林 勇輝(横浜隼人)若佐 龍之介(藤嶺藤沢)関 智洋(向

上)伏木 圭太(成立学園)秋山 拓也(横浜創学館)

◎有泉 晃生(横浜)関口 陽介(横浜商)

(注) ◎ 甲子園経験者

〔 陸上競技部・長距離 〕月刊陸上競技2月号掲載

5kmタイム

◎阿部 卓(豊川工業) 14分51秒67

◎川上 修二(鳥取中央育英) 14分55秒58

◎久保田健太(上野工業) 15分06秒19

◎鈴木 駿(藤枝明誠) 14分33秒78

◎吉川 了(智弁学園) 14分45秒59

以上5名は昨年12月開催の全国高校駅伝に出場

以下タイム不明 県予選会高校順位、区間順位を示す

○進藤 将(秋田工業主将)県予選1位 出場なし

○下里 雄喜(藤沢翔陵)県予選2位 出場なし

○宮良 拓海(八重山)県予選2位 1区2位

○内田 晃士(洛南)県予選2位 出場なし

○渡辺 正樹(藤代)県予選5位 3区4位

○島田 彰人(岡崎城西)県予選7位 1区順位不明

○上村総一郎(多良木)県予選8位 4区順位不明

○今枝 浩二(至学園)県予選35位1区順位不明

宮陵会本部通信 ー最近の活動状況ー

(社)宮陵会専務理事兼広報委員長

小川 勲夫

三浦半島支部の皆様にはご健勝のことと存じます。日頃から宮陵会活動にご協力いただき有難う御座います。このたび貴支部だよりの刊行にあたり、本部の最近の情報提供を求められましたので概略をお伝え致したいと存じます。

1:組織特別委員会関係では、平成19年から再建に向けて準備を進めておりました広島県支部が平成20年11月29日(土)に広島電鉄社長大田哲哉氏(昭和38年電気)を支部長に設立総会を154名の出席にて盛大に開催しました。これにより念願であった中国ブロック会(広島、防長、島根、岡山、伯耆、印幡)も初代プロ

ック会議長に岡山県の安東支部長を選出し、立ち上げに向け具体的な動きが始動しました。この動きに対応し広報委員会は、4月25日発行予定の会誌「宮陵58号」を中国ブロック特集とし、ブロックを構成する支部で活躍する会員の方々を紹介する予定です。

2：企画特別委員会関係では、本学の所在地である横浜市において創立者米田先生が御存命の頃には各区毎に活動していた支部が、時がたった現在は神奈川、南、旭・保土ヶ谷、横浜北（都築・緑・青葉）、戸塚・栄の5支部しか活動しておらず、在住会員27,000名弱を抱える地元として問題である。との認識から休眠支部と未組織地域に在住する有力な会員に発起人をお願いして、今年2月28日（土）横浜市内・区支部設立準備会を開催し、各区毎に会員を募り、10月をめどに設立を目指す予定です。

3：法人格等検討委員会関係では、新公益法人制度に対応し、平成25年11月末までに公益社団法人または一般社団法人への移行を決定し、行政庁に申請するため検討中です。公益認定を受けるには厳しい条件をクリアする必要があります。慎重に検討中です。

4：会議関係では、平成20年度第2回代議員会議を3月1日（日）、平成21年度第1回代議員会・総会を5月24日（日）に開催予定です。平成21年度は役員改選の年に当たります。会の運営に重要な事項ですので慎重な人選が求められます。

5：平成21年度の事業計画の概要ですが、通年事業の中で奨学金特別会計の貸付金を不況期の対策として、平成20年度3,700万円を21年度は4,000万円に増額しました。大学80周年事業への1億円寄付のうち、21年度分として5,000万円を特別資産を取り崩して拠出します。

今年は、全国支部長会議の開催年にあたります。これに対応する支出350万円を組織費支出の項目に計上しました。一方収入見込みですが、準会員費（現役学生）収入は20年度は1億1千万円の実績でしたが、少子化の影響による新入生の減少を考慮し9千8百万円としました。正会員（卒業生）の会費については総額890万円（基本会費300万円、年会費270万円、維持会費320万円）を予定しています。

維持会費は20年度該当者の11,000名のうち納入された方は382名で納入率4%。この方々に再度納入を依頼しても良くて2%、これに21年度該当会員3,600名の4%として算出したものです。

相変わらず準会員（現役学生）頼みの状況です。以上概略ですが参考になれば幸いです。

支部同好会通信

三浦半島支部ゴルフ会 第7回オープンコンペに優勝して

塚田 尚

昨年11月19日好天に恵まれ、上総富士ゴルフクラブでコンペが開催されました。久里浜からのフェリーでは田中さんのご尽力で参加者一同が特別室に案内されました。船中で中川世話人からコンペの趣旨説明がありました。

年に3回のコンペも当初2組からスタートし、最近では4～5組になり、さらに活性化を目指したいという景気のよい挨拶がありました。ゴルフクラブから参加賞をと上総富士ゴルフクラブメンバーの村田さんが交渉して下さいました。また鈴木事務局長が種々の準備をして下さったそうです。

朝一番から嬉しいことが重なり、期待に胸を膨らませてコンペがスタートしました。私達は3組で昭和38年卒同期の吉村、46年卒の鈴木（和）、植山さん達が一緒に38年、46年のグロスタートルのマッチを行い緊張した18ホールでした。結果はともかく一日楽しくプレーが出来ました。



左から植山、鈴木和夫、吉村、塚田の各氏

私は、本年42回目でグロス94というワーストタイでしたが、悪いホールがことごとく隠しホールとなり朝から終わりまで幸運の一日でした。2位は鈴木（和）、3位は斉藤（弘）、ニアピンは斉藤（弘）、飯野、ドラコンは2回植山の各氏が夫々獲得されました。新ペリア方式なのでどなたでも優勝のチャンスがあります。

皆様お誘い合わせの上次回は5組、6組を目指して楽しいコンペとしましょう!! 中川世話人さん始め前述のお世話をして下さった皆様、そして参加された皆様有難うございました。

(昭和36年機械工学科卒業)

ゴルフ会参加希望者は下記までご連絡ください。

連絡先; 中川氏 携帯090-9003-2499
自宅046-875-4360
メール nakaroku@jcom.home.ne

会員からの短信



会員の皆様からの原稿を募集しております。学生時代の思い出、趣味、旅行記、仕事のこと等テーマは自由です。字数は1,600字程度でお願いいたします。

(送付・連絡先)

〒239-0835

横須賀市佐原3-21-33 鈴木 稔

メール ne2tf6@bma.biglobe.ne.jp

携帯電話 090-9950-6054

私の夢と生涯現役

中山 廣男



私は昭和36年法経学部貿易学科を卒業して70歳になりました。神大時代の青春を思い浮かべながら筆を執っています。

私の青春の夢は海外へ出て、いろいろな国の文化を見聞したいとの目的から貿易学科を選びました。卒業

後商社に就職しました。

新入社員集中教育で教わった事は今でも頭から離れない。「日本は資源のない国である。従って日本の生きる道は海外から資源を買い、日本の技術で加工を行い、半製品として輸出を行う加工貿易より道はない」との教育であった。

アメリカ・イリノイ州シカゴ市に5年間程赴任しましたが、多人種国家の文化を見聞したことは大きな財産となっています。

私は小さい頃から物作りに興味を持っていました。商社で10年間勉強し、川崎のメッキメーカーへ転職しました。約17年間メッキを原理とするメッキ電着法を学びました。メッキ電着法(電気成形法とも言う)とはメッキを長時間施した後、メッキ被膜を剥離し製品とする手法で、同業他社は極めて少ない業種です。

同社では3年間研究所に勤務し、その後新製品の市場開拓に専念しました。どうしても自分で開発したい製品があったので無謀にも49歳で独立しました。

現在まで約21年間自分の夢を追いかめ、あっという間に70歳となってしまいました。その間8カ国26件の特許登録を得て、何とか世界の時計メーカー、電器、自動車メーカーから認知を得るまで18年間の時間を要しました。

今振り返ってみる時、神大に入学した時の夢が原点のように思います。私の特許製品とは、メッキ被膜を剥離し、裏に接着剤を塗布した金属バラ文字の転写シールです。私が発明するまでは世の中に存在しませんでした。

スイス、日本の高級時計文字盤に使用している時字(1時~12時)、ソニーノートパソコンのVAIOロゴ、シャープ液晶テレビSHARPロゴ、メルセデスベンツ、BMW、ポルシェの内装の飾りロゴ、時計等多用されています。

海外の売込みで一番苦労したことはスイスの時計メーカーでした。サンプルをカバンに詰め売込みを目的に訪問したわけですが、彼らは100年以上の歴史と伝統とプライドが高く、新しい技術は容易に受け入れられませんでした。導入をして頂くのに3年の時間を要しました。従来の技術ではプレス法であるため、長方形、丸、四角の形状以外の時字は製造不可能でした。

一番歓迎してくれたのは世界の時計デザイナーでした。何故ならば自分が描いたグラフィックデザインが忠実に金属化される技術であったからです。

近年、異金属の新製品2件を世の中へ送り出すことが出来ました。研究開発とはエンドレスであることからボケ防止のため、もう暫く脳に刺激を与えようと考えてい

ます。最近では残された人生を中学校、高校社会科課外授業に費やしています。

(プロフィール)

1939年2月1日青森県黒石市生まれ。1957年東奥義塾高等学校卒業。1961年神奈川大学卒業、伊藤忠商事(株)入社。1971年(株)旺電舎入社(電気成形メーカー、取締役製造本部長・営業本部長)。1988年テフコ青森(株)(製造)・テフコインターナショナル(株)(横浜市・販売拠点)設立。2004年電着バラ文字発明に対し文部科学大臣賞受賞。2006年電着バラ文字の研究開発に対し黄綬褒章受章。

(起業理念・起業家精神)

(1) 私の夢

あなたの夢は何ですかと問われたら「人々が驚き、感動するような美しい華飾部品を創造する事」と答える。

(2) 私の発明、開発に対する哲学

- ① 発明や開発改良は常に常識の裏に潜んでいる。
- ② 不良の山に宝が眠っている。
- ③ 満足した時にその技術はストップする。
- ① 難産で生まれた製品ほど光輝く。

(3) 公的機関への還元

創業期において公的支援を数多く頂いた。サポートに対する還元として法人事業税を出来るだけ多く納付できるよう努力している。

(4) 地域社会への貢献

地場企業であることから地場社員の雇用の増大・地場公的機関への協力に努めている。またベンチャー起業人の義務として地域社会への奉仕、献金等進んで実施している。

(5) ベンチャー起業人としての世界貢献と責任

近年の地球温暖化を考える時、弊社は約15,000㏓のメッキ液を保温するため年間107,000㏓の灯油を燃焼させCO2を排出し、地球を汚染している。

2008年4月に経営方針を策定し、2013年3月末日を期限とし、CO2排出量90%削減5カ年計画を発表した。現在、地場石油販売会社及び大手元売石油会社、大手商社と4社共同して水素燃料電池シス

テムの開発を進めている。

(昭和36年法経学部貿易学科卒業)

雑感 神奈川大学の思い出

南雲 忠男



昭和32年第二法経学部法学科に入学。当時勤務していた南区の県立病院の独身寮からバス・京急弘明寺駅から電車に乗り継ぎ通学した。

最終時限まで授業を受けると最終バスがなくなり約20分の山道を歩いて帰寮した。それから病院の職員給食が夕食になり、それまで空腹を我慢できず学生食堂で1回目の夕食をとるのが習慣になっていた。

ラーメンは30円だったように思う。

クラスには同じ県庁職員が何人もいたので、話も通じ心強かった。皆社会人であり背広姿が多い中、私は、2年次ぐらいまで詰襟(学生服)でとおしたので目立ったようだ。土曜日は半日勤務(いわゆる半ドン)だったので早めに登校し、昼間部学生の部活を見るのが楽しみの一つで、印象に残っているのはラクビー部の練習で強力な肉体がぶつかり合うのが頼もしく、やってみたいスポーツの一つだった。

もう一つは空手部。鉢巻をして真剣な眼差しで鼻血を出しながらも、やるかやられるかといった気迫のこもった練習であった。

2年次になった年にワンダーフォーゲル部が創設されたので早速入部し、3年次には部長もやらせていただいた。当時、国鉄(今のJR)では学生割引(半額)制度があり魅力であった。しかし学割証明書(在学証明書?)の発行は厳しく、それなりの理由がないともらえなかったが部活動として申請すると容易に受けることができ、有効に利用することができた。山岳部ほどの厳しい訓練はしなかったが普通の山歩きの他印象に残っているのは、谷川岳マチガ沢でのグリセードと滑落停止訓練や懸垂下降、丹沢・大山では駆け足登山など……。

最近になり一昨年(平成19年)春、OB部員が40

数年ぶりに会う機会を設け箱根金時山(1,213m)ハイキングを行った。現在も働いている者、サンデー毎日の者、趣味に熱中している者など様々であった。どうやら登りきった山頂で記念写真を撮るべく近くにいた若者にシャッターをお願いしたところ想定外の質問をうけた。「戦友会の集まりですか?」と、皆顔を見合わせて笑った。

若い人から見れば風貌や体形がそんな年代に見えるのかと複雑な気持ちであった。下山後は母校の箱根保養所で汗を流し懇親会に移った。ハイキングに参加しない者も合流して(8人)思い出話や近況など語り合い、酒とともに意気軒昂旧交を温める場となった。

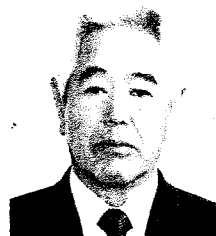
正月の恒例行事である箱根駅伝の人気と魅力は高いまま続いているが、私は30年前から走ることを趣味としている一人として特に関心をもっている。その迫力をゴール近くで見たいという気持ちから、毎年応援と観光を兼ねて箱根に宿泊し往路は母校の応援拠点で見物し、復路は湯本駅前でのOBとともに応援するのが我が家の年中行事にしており今年で16回目となった。

ブラバンやチアリーダー、応援指導部などその熱心で真摯な姿勢には感動する。ただひたすらに声を出し、校歌・応援歌を歌い演技をしている。この風景は、ゴール予定1時間前から最終ランナーが通過するまで続いている。特に平成9年、10年の連続優勝の年はものすごい盛り上がりであった。

平成9年3月、旧横浜プリンスホテルで行われた優勝祝賀会では選手や工藤監督(当時)と親しく話をすることができ貴重な思い出となっている。その後も工藤監督には私の所属する「走遊会」の研修会の講師も依頼し、指導を受けたこともあり、母校が箱根駅伝に復活進出し活躍とともに一層関係を深めることもできたと思う。

そのことにより視野も広がり、新しい出会いもあり、心を豊かにしてくれている。今年は、残念ながらシード落ちしてしまったが、また予選会から楽しむことができるのだと前向きに考えたい。躍進の期待と感謝の日々である。

(昭和36年第二法経学部法学科卒業)



今年の干支は「丑」、12支の2番で家畜としての牛が一般的なイメージで、古くから荷物を運び、大地を耕し、また食用としても貴重な人間と深く関わりのある動物としてあげられてきました。

昨年後半から年末にかけて日本経済は、大きく失速し大手企業の人員整理による失業者や、住宅困窮者の大量発生等のニュースが新聞、テレビを賑わせました。これはかつての高度経済成長の時代から脱却し、もう少し振り返り人間の原点に戻って足下を見つめ直しなさい、という天からの警鐘ではないかと思えます。

さて、表題の「無駄」ですが、広辞苑によりますと「役に立たないこと。益のないこと」また、例えて「無駄飯、無駄口、無駄話、無駄骨等がある」と説明しているように、あまり良い例えとしては使われていないのが実態です。

これは本来の意味からすれば、一生懸命努力してやって来たことが報われず、ましてやその努力が「役にも立たず、益もないこと」になってしまったのでは、その人にとってたまったものではありません。しかし、そのことを無駄として判断するのは誰でしょうか。本人以外の関係者を含めた第三者の評価なのです。また、その評価の中の一部にはこの無駄をかえて有益と評価をする場合も少なくありません。

また、この判断は「時と場合」「時代や社会の変化」によっても変わってくる場合があります。無駄の中から大きな発明や、発見があり、時には後世になって大きな評価を受けノーベル賞になった例もあります。

無駄とは、その人にとって他人には分からないまま、ある目的をもって長期間にわたって日常的に繰り返し実行される場合が多く、例えば適切でないかも知れませんが、一種の麻薬中毒にかかってしまったような状態ではないかと思われま。しかし本人にとってはこの無駄の度合い、割合が日常生活にどのような結果をもたらすのか分からないままに生活の一部になっているのです。また無駄というのを別な言葉で言えば「ゆとり」となります。また無駄の反対語は何かといえば「活用」だと思います。

昨今、大きな問題になっている有限資源である地球資源や環境の保全、人口増による食糧危機、病気疾病等々の対策をどのようにするのか社会的問題として議論され、その施策に効率を優先するため、無駄があるように指摘されています。しかし、これを長い目でみれば有効

無駄のすすめ

石井 和行

に活用されている場合が多くあります。

有名な話として「青砥藤綱の銭拾い伝説」があります。概要は「滑川に落とした十文の銭を探すため、家来に五十文で松明を買ってこさせ探し出した」という話です。このことに対し、人々は「藤綱は勘定知らずだ。十文探すために五十文使って損をしている」と笑ったという。それに対し藤綱は「常人の考えはそうだろう。しかし、銭が川に沈んだままでは、永久に使われることはない。五十文で松明を買えば、それを作っている町民や商っている商家も利益を得られる」と笑った人々を諭したという。

それはそれとして、我々庶民は無駄を有効活用することによりお金が掛からず、他人にも迷惑をかけず、自分自身の判断と方法により無駄資源を開発することは、大きな社会貢献になるのではないかと思います。

今年の干支である丑に関する諺の中に「牛の歩みも千里」というのがあります。何事も根気よく持続していくことが大切であるという意味だそうです。

今まで、無駄飯を食べ、無駄口、無駄話をし、無駄骨を折ってきたが、これからも無駄の原点である「大きな夢を持って小さな一歩から始める」を大切に、他人の評価を気にせず自分の無駄を大いに楽しもうと思います。

(昭和39年第二法経学部法学科卒業)

惜別 原 司郎先生

鈴木 稔



学生時代、ゼミでご指導いただいた原司郎先生が、昨年7月30日逝去された。享年79歳であった。8月3日東京都世田谷区の斎場で告別式が執り行われ参列した。先生のお蔭で今日の自分があると思うと感謝の気持ちで一杯である、紙面をお借りし先生への思いを熱く語りたい。

私は昭和40年、21歳の時に第二経済学部経済学科に入学し、昭和44年卒業した。早いもので卒業から40年が経過する。当時の神大は、外国語学部新設。法経学部を法学部、経済学部に分離、独立。工学部に建築学科を増設。施設面でも10、11号館、体育館、大講堂

が竣工するなど飛躍の時期であった。しかし昭和43年1月、原子力空母エンタープライズ横須賀寄港阻止支援カンパ問題から学生運動が活発となり、その後全国の大学と同様に学園紛争が激しさを増して学内は混乱、正常化するまで10年以上の歳月を費やすなど苦難の時期を送る。

神大を志願したのは、横浜市中区の勤務先から通学に便利という理由であった。当時の二部生は年齢はバラバラ。国の出先機関、神奈川県・横浜市を始めとする自治体職員、横浜、川崎地区の企業・団体に勤務される方が多く学んだ。授業料も安く、著名な教授陣の授業を受けることができた。

ゼミの指導教授は金融論の原司郎先生。先生は私より15歳上で38歳の新進気鋭の教授。昭和3年10月茅ヶ崎市で生まれ、昭和27年3月東京大学経済学部経済学科(旧制)を卒業され、日本勧業銀行に入行後、翌年東京大学大学院経済学研究科(旧制)に進まれた。神奈川大学には大学院生の時に招かれ経済学部専任講師に就任。助教授を経て昭和38年4月、34歳の若さで教授に就任した。昭和38年10月から昭和41年9月まで2回にわたり西ドイツ・フランクフルト大学に留学し、昭和44年経済学博士の学位を授与されている。

ゼミに入る前から先生は、多くの金融専門誌等で論文を発表されていたので名前は良く存じあげていた。昼間部では金融業界志望の学生に人気があり、厳しい試験を通過しなければゼミに入れなかったようだが、私達の場合幸運にも希望者全員が認められた。40年前のことで記憶が薄れてしまったが、横浜国立大学経済学部宮崎義一教授の著書「戦後日本の経済機構」や先生の著書を中心に学んだ。



原司郎教授

先生を交え時折、野毛町の割烹料理店「伊豆一」の2階座敷でゼミのコンパを開いた。この店はゼミ生の親族が経営されていたので特別料金で行うことができた。また箱根へ卒業旅行を行い、森下守久さん(三浦半島支部会員)の計らいで日立製作所箱根保養所で一泊。伊勢佐木町の百貨店で購入した置時計を記念品としてお贈りした。ゼミで鍛えられた

のは知力だけでなく、人との付き合い方や酒の飲み方ではなかったかなと思う。

先生は大変面倒見の良い方で、昼間部ゼミ生の就職指導を熱心に取り組み学生を都市銀行、長期信用銀行、地方銀行、証券会社に続々送り込んだ。そして「原 陵会」

を立ち上げ、昼間部ゼミ卒業生は宮陵会の支部組織の「原陵会」会員とした。会員の卒業生は学生を指導し、就職活動ではリクルーターの役割を果たしている。宮陵会には地域・職域・サークル等多くの支部があるが、ゼミ卒業生で構成される支部は異色といっても良い。神大原ゼミの卒業生は約550名という。平成元年頃と思うが「日経金融新聞」に金融業界で活躍中の神奈川大学原ゼミ卒業生の記事が大きく掲載され目を瞠った。

私が卒業した翌年の昭和45年7月、先生は経済学部長に就任した。学園紛争が吹き荒れる昭和46年2月学校法人神奈川大学理事長に就かれたが、同年10月退任された。「神奈川大学50年小史」によると学園紛争が始まり正常化するまでの約10年間で、理事長が10名、学長12名が変わられており大学にとって長い冬の時代であったことを物語る。

神奈川大学退任後の昭和46年12月、横浜市立大学商学部教授に迎えられ、また神奈川大学経済学部非常勤講師として平成5年頃までゼミを担当。学校法人神奈川大学の評議員会議長も務められ大学に貢献された。昭和61年4月、横浜市立大学商学部長並びに大学院経済学研究科長・経営学経営科長に平成2年3月まで就かれた他、社会活動として政府の諮問機関委員（資金運用審議会専門委員、郵政審議会委員、金融制度調査会専門委員、同調査会金融制度第一委員長、金融問題研究会委員、住宅地問題審議会委員、簡易保険調査研究会座長、不動産証券化委員会委員長、農協制度研究会委員、文部省学位授与機構運営委員、金融制度調査会委員）として活躍され、平成4年3月横浜市立大学教授を退任。（同大学名誉教授）同年4月高千穂商科大学教授、同大学学長に就任した。

先生は「地域金融と制度改革」（東洋経済新報社）他33冊の著書を刊行し、発表した学術論文は78を数えるなど日本を代表する金融学者であった。

特に金融制度調査会（大蔵大臣の諮問機関）の金融制度第一委員長として、相互銀行の普通銀行への転換、協同組織形態の金融機関の金融自由化の下での存立意義および全信連債券（金融債）の発行、優先出資証券の発行等、地域金融のあり方等に関する理論的体系化、政策的提言を行った。

私は、大学在学中（社）神奈川県農協会館事務局に勤務していたが、昭和46年4月、27歳の時役員推薦で神奈川県信用農業協同組合連合会（略称JA神奈川県信用）職員に採用され移籍した。原ゼミにいたことが多少なりとも影響したのかもしれない。

卒業後、先生とお会いしたのは3回ほど。昭和58年

に二部原ゼミ同期会を中華街「華正楼」で開き懇親を深めたこと。それから平成2年、企画管理部企画調査課時代、県下農協常勤役員を対象とする「トップセミナー」に講師としてお願いするため横浜市立大学の研究室を訪問し打ち合わせをさせていただき、セミナー会場で先生の講演を拝聴した。原陵会会員であったなら毎年の総会でお会いする機会があったのではと考えると残念でならない。

先生の訃報は原陵会支部長中野健一さん（元横浜銀行）から知らせていただいた。訃報は翌日の全国紙、地方紙にも掲載され、告別式は日曜日ということもあり、全国各地から教え子が多数参列された。祭壇には関係した大学の他、各界から数えきれないほどの生花が並び先生の人脈の広さと人柄が偲ばれた。お別れの弔辞は、原陵会（神奈川大学）、原交会（横浜市立大学）、原窓会（高千穂商科大学）を代表して原陵会支部長中野健一さんが読まれた。お別れの儀に際し、柩に生花を手向け最後のお別れをさせていただいた。火葬場へ向かう車が斎場を離れる時「先生ありがとう」と多くの参列者から声が飛び目頭が熱くなった。青春時代、神奈川大学で原司郎先生と巡りあい、わずかな期間であったがご指導いただきありがたく思う。

今年1月18日、先生が眠られている鎌倉市材木座にある長勝寺を訪れ、墓前に生花と線香をあげさせていただき改めて感謝の言葉を述べた。

（昭和44年第二経済学部経済学科卒業）

事務局からのお知らせ

三浦半島支部新会員のご紹介

三浦半島支部会員になりました4名の方をご紹介します。今後ともよろしく願いいたします。

（敬称略）

- ◎ 清水 洋一 （43年貿易・横須賀市田浦町）
- ◎ 吉田 武男 （43年貿易・横須賀市グリーンハイッ）
- ◎ 轟田 俊秀 （44年応化・横須賀市船越町）
- ◎ 植山 修二 （46年法律・横須賀市山科台）

会費納入のお願いについて

平成21年度年会費のお振込をお願いします。該当者は郵便局の「払込取扱票」を同封いたしました。

◎郵便振替受入口座00290-5-95815
宮陵会三浦半島支部

◎横浜銀行口座 久里浜支店
普通預金 1747984
宮陵会(神奈川大学校友会)三浦半島支部
代表 鈴木 稔

会費は年間3千円、4年前納は1万円です。

支部年会費納入状況

(平成21年3月9日現在)

(敬称略)

〔平成21年3月末まで納入者〕

- (鎌倉) 小永井 潔 篠田 拓郎 川瀬 元夫
岩崎 英昭 山岸 一輔
- (逗子) 山本 厚 中島 龍彦
- (葉山) 中村 進 中川 六郎 周藤 亜矢子
- (横須賀) 竹内 茂 鈴木 昭利 上野 譲
島 久喜雄 萩原 孝 南雲 忠男
角谷 彰 蛭子 英二 上原 章道
石渡 敏夫 大倉 国光 浅山 正義
金野 義勝 武井 利徳 伊澤 隆雄
石田 泰教 青山 隆一 鈴木 三郎
松井 一郎 長島 保雄 川口 好孝
鈴木 康介 星野 由希子

〔平成22年3月末まで納入者〕

- (鎌倉) 飯田 秀男 小澤 光 石井 和行
若林 秀明 北野 紘一 古川 勝彦
- (逗子) 岸本 光瑞 松本 育雄 千葉 毅一
- (葉山) 岩澤 正之 石渡 俊一

～ 次へ続く ～

- (横須賀) 山内 元式 森 茂 八嶋 政臣
中山 廣男 石井 一男 落 勝廣
菊池 武 村田 龍也 結城 康雄
長谷川征勝 金井 昌孝 熊澤 勝喜
寺脇 敏彦 早川 勝繁 福島 康臣
砂川 正夫 森下 守久 鈴木 稔
野村 晴男 相原 充 田中 久夫
嶋田 晃 塩塚 定雄 舟崎 学志
内藤 正久 下村 俊一 清水 英樹
新藤 優 星山 正範 工藤 真也
- (三浦) 原 柳作 石渡 大輔 石渡 大湖

〔平成23年3月末まで納入者〕

- (鎌倉) 矢澤 基一 (逗子) 長澤 良成
- (横須賀) 鳥海 洋義 松岡 和行
- 〔平成24年3月末まで納入者〕
- (鎌倉) 井口 淳 (逗子) 石渡 浩
- (葉山) 小池 邦夫
- (横須賀) 塚田 尚 奥野 晶洋 久保田 宣彦
鈴木 和夫 名取 美佐男 箕輪 義夫
二井 美恵子
- (三浦) 天白 世里子

(平成25年3月末まで納入者)

- (横須賀) 植山 修治 永野 茂
- 会費納入者 94名

編集後記

パソコンソフト「一太郎」で作りました会報第7号をお届けします。平成20年度は4月、9月、今回と3回発行することが出来ました。

この会報を通じ会員の輪が広がって行くことを期待しております。読めば10分程度の内容ですが、発行までには相当な時間を費やしました。役員の皆様には、紙面の企画情報提供を呼びかけましたが反応はゼロ。今回も独断専行し、まずは情報収集と原稿づくり。パソコンへ入力してからレイアウトを考え、何回も読み直し誤字、脱字がないか点検しようやく完成。役員任期は残り1年。会報編集の後継者が現れるのか心配しているところです。(S)